

2番目の悪者にならないために

言の葉OFFICEかのん代表 川邊 暁美

元日恒例ウィーン・フィルハーモニーのニューイヤーコンサートで指揮者のヤニック・ネゼセガン氏が世界に向けて発したメッセージにその演奏同様、強く心を打たれた。

優しさこそが平和をもたらす、お互いへの優しさ、違いを受け入れ、祝福する優しさを持つと呼びかけ、そして、音楽は私たちを一つに結ぶことができる。なぜなら、私たちはこの同じ惑星で生きている者同士だからだ、と結んだ。誰もが世界平和を願わずにはいられない2026年の年明けであった。

◆いきなりの衆院選、思い出した絵本

日本ではいきなりの衆議院解散による選挙戦に突入した。今回の選挙でもSNSや動画サイトなどインターネット上に拡散する真偽不明の情報を否応なしに見聞きする。報道機関によるファクトチェックも行われているが、目にする情報に対して、これは正しいか？根拠は？発信元は？など考えながら読むのは結構疲弊する。有権者も大変だ。

「もう、どうでもいいか」と、関心を失いかけたときに思い出したのが絵本「二番目の悪者」(2014年、小さい書房発行、林木林／作、庄野ナホコ／絵)だ。物語の冒頭は「これが全て作り話だと言い切れるだろうか」という一文で始まっている。

あらすじはこうだ。動物王国で次の王様を決めることになった。自分こそが王にふさわしいと思っている金のライオンは、ライバルである心優しい銀のライオンを蹴落とすために根も葉もない悪い噂を流す。

◆「嘘は向こうから巧妙にやってくる」

最初は誰も信じなかったが、疑いながらも話題にすることでじわじわと悪い噂が広まっていき、やがて、真実として信じられるようになった。「火のないところに煙は立たないっていうからね」。銀のライオンは、誤解はいつか解けると思い、苦笑するのみ。その結果、金のライオンが王様に選ばれる。

ところが、王になった金のライオンは好き勝手に国を治め、たちまち国は荒れ果ててしまう。動物たちは嘆く。「どうしてこの国はこんなことになってしまったんだろう」。頭上の雲がつぶやく。「本当に金のライオンだけが悪かったのか・・・？」

タイトルにある「二番目の悪者」とは誰のことなのか。聞いた話を何となく仲間や家族に知らせたり、届いたメールを転送した動物たちか。転がるような勢いで噂は膨れ上がっていったが、悪意があったものは誰もいない。ただ、誰も自分の目で確かめようとしなかっただけ。銀のライオンも噂を否定せず、沈黙していただけ。一部始終を見ていた雲の声。「嘘は向こうから巧妙にやってくるが、真実は自ら探し求めなければ見つけられない」「誰かにとって都合のよい嘘が世界を変えてしまうことがある」「だからこそ、何度でも確かめよう」

◆無関心にならず、真実を見極め、選択する

この絵本では、真実を見極める重要性とともに、無関心や沈黙の危険性も指摘されている。大人のためのボランティア朗読会でこの絵本を紹介したところ、参加者の1人がぽつりと「現代の怪談みたいですね」と感想を漏らした。妖怪や幽霊は出てこないが、確かにうすら寒い。しかし、冒頭の一文を思い返す。「これが全て作り話だと言い切れるだろうか」

ヤニック・ネゼセガン氏のメッセージにあった。平和とは、心の中の平和、周囲の人々との平和、世界中のすべての国々との平和だと。その一歩は無関心にならず、真実を見極め、選択することだ。

(かわべ・あけみ)

◆監修◆ 内外情勢調査会

◆委託編集◆ 時事総合研究所

〒104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 TEL: 03-6800-1111(代表)

この記事に関する問い合わせは、時事総研(03-3546-2384)まで

本稿の一切の情報について、無断転載・複写をお断りします。©時事通信社 2003